

会議議事摘録

会議名	平成 27 年度第 3 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 28 年 3 月 19 日 (土曜日) 14 : 00 ~ 16 : 30 (2.5h)
場所	本校 3 階 302 教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：岩間みどり(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者) (計 6 名)</p> <p>②学校：橋本正樹 (校長)、藤野 裕 (参与)、宮下明久 (事務局長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一 (診療情報管理専攻科学科長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、檀 貴与 (鍼灸医療科学科長)、村山由美 (教務委員長)、(計 9 名)</p> <p>③事務局：高橋 稔(校長室) (計 1 名)</p> <p>(参加者合計 16 名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>①事前送付：</p> <p>□資料 1：平成 27 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2：平成 27 年度学校関係者評価委員会報告、□資料 3：平成 27 年度重点目標の自己評価 (年度末点検)、□資料 4：平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組報告 (年度末点検)</p> <p>②本日配付：</p> <p>□資料 5：平成 27 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告 (別添 A：平成 27 年度退学状況、別添 B：平成 27 年度進路決定状況、別添 C：平成 27 年度後期授業アンケート集計結果、別添 D：平成 27 年度学校生活に関する調査・挨拶に関するアンケート集計結果、別添 E：資格取得に関するアンケート集計結果、別添 F：平成 27 年度教員研修計画・実績、別添 G：平成 27 年度授業公開実施報告、別添 H：平成 28 年度学生募集状況)、□資料 6：平成 27 年度卒業式資料</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、本日は平成 27 年度 3 回目ということで、今年度活動の振り返りと来年度に向けた課題をテーマにしている。今年度は看護科を開設し、新入生 35 名に合わせて河北医療財団看護専門学校から 2 年生と 3 年生が編入して、在学生数 816 名でスタートしたが、退学者が前年より増えており、これが来年度に向けての懸念事項となっている。委員の皆様には、本日も本校について外から見た目で、できるだけ多くのご意見等を賜りたいとの挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認</p> <p>保坂委員長より、当委員会は今年が 3 年目ということで、継続した課題がいろいろあると思うが、本日も限られた時間の中でできるだけたくさんのご意見をいただきたいとの挨拶の後、前回議事録 (資料 1) について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を</p>

進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

3. 平成 27 年度学校関係者評価委員会報告の確認（説明者：事務局高橋）

保坂委員長より、前回委員会においてまとめた平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書（資料 2）の確認経過及び平成 27 年 12 月 25 日付で校長に提出したことについて報告があり、確認、了承された。

また、事務局高橋より、報告書は 12 月 28 日以降学内ネットに掲載して公表していること、本日の確認後は本校ホームページに掲載する準備を進めることが報告された

4. 経過報告（説明者：宮下事務局長、村山教務委員長、事務局高橋）

平成 27 年度第 2 回委員会以降の主な経過について、各担当（内定状況、学生募集：事務局長、資格取得に関するアンケート、教員研修：教務委員長、その他：事務局）より、資料 5 に基づき報告が行われ、確認、了承された。

なお、委員より資格取得に関するアンケートについて意見があり、菊池及び石川学科長から補足説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 平成 27 年度重点目標の自己評価（年度末点検）報告（説明者：橋本校長）

橋本校長より、資料 3 に基づき、今年度の 3 つの重点目標（①TPC の育成と強化、②退学防止、③教員研修）の年度末結果について報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

なお、委員より以下について質問と意見があり、説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①募集広報協議会について
- ②インターン生の内定辞退について
- ③広報活動の方法について
- ④退学者の増加について

6. 平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組（年度末点検）報告（説明者：橋本校長、各学科長、教務委員長、事務局長、事務局高橋）

各担当より、資料 4 に基づき、取組の年度末点検結果について報告が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問と意見があり、担当よりそれぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①病院見学プログラムについて
- ②授業公開について
- ③在宅介護現場の見学実習について
- ④医師事務作業補助者の教育について
- ⑤模擬試験参加状況について
- ⑥就職志望先を選定する理由について
- ⑦保護者会について

- ⑧家庭と学校との連絡について
- ⑨マイナンバーと学生の関連について

7. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

各委員の日程確認が行われ、平成28年度第1回委員会は6月25日（土）14:00～16:00に開催予定とした。次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ・平成27年度活動の自己点検・自己評価結果（改善報告を含む）報告
- ・平成28年度の重点項目説明
- ・平成27年度委員会報告に示された課題への取り組みの進め方、進捗報告

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞及びまとめが述べられた後、次年度への協力依頼が行われ、閉会した。

以上

別紙

平成 27 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告について

○事務局高橋、宮下事務局長、村山教務委員長より、担当する項目について、資料 5（別添 A～H）及び資料 6 に基づき平成 27 年度第 2 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 職業実践専門課程関連

(1) 医療事務分野教育課程編成委員会（医療秘書科、医療マネジメント科・診療情報管理専攻科）

・ 2/22 平成 27 年度第 2 回委員会

(2) 福祉分野教育課程編成委員会（介護福祉科）

・ 12/16 平成 27 年度第 1 回委員会 ・ 3/11 平成 27 年度第 2 回委員会

2. 学生の状況関連

(1) 退学の状況：2 月末時点での退学者（別添 A）

・「退学者・学籍異動の記録」改訂、「退学防止の事例記録」制定して 1 月から使用開始（別添 B）

(2) 就職内定の状況：2 月末時点での内定状況 各学科及び主な内定先（資料 6）

3. アンケート関連

(1) 自己点検委員会が定期的実施しているもの

27 年度	前期授業アンケート	後期授業アンケート	学校生活に関する調査
実施期間	6/22（月）～26（金）	12/9（水）～15（火）	12/9（水）～21（月）
実施学科	看護科を除く学科		
実施要領	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問項目 12 + 自由記述 2 ・ 担当教員が実施、実施後内容確認の上集計 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問項目 24 + 自由記述 ・ 裏面学生委員会挨拶アンケート
実施数	・ 335 科目、7,923 回答	・ 291 科目、6,308 回答	・ 526 回答（インターソップ [®] 除く）
結果公表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別：学科長より常勤教員・兼任講師に手渡し ・ 後期授業アンケートの全体集計（別添 C） ・ 教職員は学内ネット、学生、兼任講師は図書室に配架 ・ 学外：平成 27 年度活動の自己評価報告と合せて本校ホームページに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別：常勤教員に手渡し、兼任講師は郵送 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体集計（別添 D） ・ 学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・ 学外：非公開

(2) 教務委員会が実施した資格取得に関するアンケート

・ 平成 25 年度の学校関係者評価委員会報告書の提案によるアンケート

・ 医療事務系 2 学科のインターンシップ専攻生に対して、在学中に取得した検定資格が職場でどのように役立つかを調査（別添 E）

4. 教員研修関連：教員の研修に関する細則に基づき以下の研修を計画的に実施（別添 F）

① 専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施する研修

② 授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施する研修

5. 授業公開関連：実施概要

・ 重点目標に基づく教員のインストラクションスキル研修と位置付けて学科単位で実施

・ 実施期間は 6 月以降、試験期間を除く授業期間中の各学科が指定する 1 週間

・ 実施期間中の授業を公開、学科教員は自由に参観（非公開とする授業を予め明示することは可）

・ 他学科教員、事務職員は公開者に公開日朝までに申し出て参観

- ・授業公開に関する情報は事前に学内ネットに掲載、また教職員全体会を通して事前伝達、周知
- ・実施状況（別添G）

6. 学生募集関連：2月末時点での出願状況（別添H）

7. 平成27年度活動の自己点検・自己評価関連：実施日程と実施内容

日程	実施内容
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・部署毎に該当する点検項目について各担当が3/31時点の見込みで点検・評価 (1)平成26年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組（年度末点検） (2)平成27年度重点目標の達成の自己評価（年度末点検）（校長） (3)平成27年度活動の自己点検・自己評価 ※使用基準は私立専門学校等評価研究機構「専門学校等評価基準書 ver4.0」
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・3/19：第3回学校関係者評価委員会に(1)と(2)を報告 ・3/25：3月点検委員会で(3)確認、(1)を踏まえて(4)を記述する
4月 5月	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、5月点検委員会において(3)をもとに「27年度活動の自己評価報告書（点検大項目）」まとめ、6月の学校関係者評価委員会に報告する(4)の確認 (4)平成27年度学校関係者評価委員会報告書における意見・課題の進め方

8. 卒業式関連

- ・3/15（火）平成27年度卒業式・修了式（資料6）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 資格取得に関するアンケートについて

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 教務委員会が実施したアンケートの結果をどう考えるか。 <input type="checkbox"/> これは当委員会での意見に基づく初めての調査だが、今後は、インターン生だけではなく、卒業した方々もネット等を通じて是非やっていただきたい。	<input type="checkbox"/> 対象がインターン生なので医療秘書科の学生が多い。就職先はほとんどがクリニックで外来患者が中心であり、DPC（定額払い）を導入していないことからコーディングは必要ない。病院でも新人は受付窓口が多い。入院関係の仕事などはある程度慣れてからになるので、こういう結果になるのは当たり前だと思う。 <input type="checkbox"/> もう一つ、診療情報管理士を目指している専攻科は含まない。ICDを使う業務に携わる学生はインターンに出ていない。

5. 平成27年度重点目標の自己評価（年度末点検）報告

○橋本校長より以下の説明が行われた。

- ・三つの重点目標のうち、TPCの育成と強化、退学防止は前年度と同様、教員研修は今年度新たに設けたものである。

(1) TPCの育成と強化

- ・考える力、積極性、対話力の3つの能力の育成と強化が職業人としての大事な要素であるという考え方をあらゆる場面で繰り返し伝えている。
- ・学内の研究誌に毎年論文を書いているので是非読んで欲しいと伝えた。また、今年度は「教育現場からの声」に多くの教員が投稿し、その中でTPCの育成に関する状況について触れられている。TP

Cの3要素の重要性が繰り返し伝える中でようやく伝わり、理解されてきたと思っている。

- ・しかし、今年度は医療事務系のインターンシップでの内定辞退が19名発生している。病院実習を経て就職先が決まり、そこで予備的に仕事をした段階で辞退して帰ってくる学生が増えたことは、TPCの教育が必ずしもうまくいっていなかったことのあらわれだと思っている。
- ・報告書を読むと、職場の指示系統がうまくいっていない中で、自分で考えて提案し前向きにやっというようになるならいいが、指示されることが前提と本人が思い込んでいると混乱して、学校に泣いてきて辞めます、説得も受け入れないという学生が目立つようになってきた。
- ・TPCの強化について、来年度に向けてもう一度確認し、学生に働きかけていかなければならない。
- ・今後の課題としては、入学時点でこういう学生が欲しいこと明確にし、こういった素養を持った学生にこういう教育をして、こういうふう卒業して就職してもらいたいという、我々の教育におけるアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーをもう一度各学科で確認する必要がある。
- ・そのために、入口の学生募集に関しては募集広報協議会の設置を来年度の校務分掌で考えている。この中で広報室のメンバーと現場の教職員が意見を出し合い、それを具体的行動に結びつけて行きたい。
- ・定員を満たしている学科については、その学科のアドミッション・ポリシーに沿った学生を集める広報等を考えていく。それが結果的には教育の質を高めることにつながるなので、その方向性をもう一度確認しながら、全学的に進めていく。
- ・出口については進路指導協議会の設置を考えている。どういうプロセスで学生を育てるか、4月のオリエンテーションから卒業後に至るまでのサポートをもう一度学内的に確認する。
- ・具体的には教員とキャリアサポートセンターだけでなく、校長、事務局長をはじめとした関係者が全学的な体制で取り組む年にする。
- ・10のうち2つでも3つでもうまくいけば大成功。失敗したものは体験になるので、28年度は動く年にしようと思っている。

(2) 退学防止

- ・資料は41名となっているが、現時点では44名、5.4%になっている。退学率の流れを見ると25年度は3.4%、26年度が4.5%、27年度は、最終的に卒業できない人も退学者とカウントすると5.7~5.8%になる可能性がある。
- ・夏までは従来型のやむを得ない事情による退学が多かったが、今年は年明けの退学者がやや多いのが特徴である。昨年度10名が今年度は現時点で17名になっている。2月退学の多くは出席が足りず、進級ができないのが理由である。
- ・この中には防げる退学に含まれるものもあるため、防げる退学者は極力防ぐことをもう一度きちんとやらなければいけないと思っている。報告式も工夫して年明けから運用を始めているが、これをまず活用する必要がある。
- ・1年制の専攻科で何名も退学するという事態が生じたが、今年度は進学者が一気に増えたという実態がある。専攻科は診療情報管理士の合格を目指した教育であり、見える数字も意識しなければならない。質を維持するためには入学時の絞り込みも必要だと思っている。

(3) 教員研修

- ・前年度よりも参加者が増えているが、事務職員も含めた教職員の自主的な勉強会をサポートすることを事業計画に載せて、奨励する、支援する姿勢を明確にした。
- ・外から人を招いての講演会等もこれまで以上に必要だと思っている。募集等については、代理店の担

当者を招いての研修も仕掛けていきたい。外の刺激を受けながら我々もみずからを高めていくことを考えている。

- ・28年度は授業公開も担当部署を教務委員会に変更し、教員を中心により具体的に練り直して進めていきたいと考えている。
- ・今年度は重点目標を3つ挙げたが、いずれも上手く進んでいない。ただこれは、上手くいかなかった体験を次に生かす、来年度はより積極的に行動に示すということで、教職員一丸となって進めていきたいと思っている。委員の皆様には引き続き見守っていただきたい。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

(1) 募集広報協議会について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□募集広報協議会の構想を聞かせてほしい。</p>	<p>□具体的には広報室のメンバーと各学科の広報担当を学科長が推薦をして、それを主たるメンバーに校長、事務局長も加わる。TPCを強化するには、学校の募集スタンスもそういった形で育つ伸びしろのある学生に入ってもらいたいという思いがある。特に懸念しているのは医療事務系の学科であり、指示されてやる仕事、今後自動化される恐れのある仕事は採用も減る中で、医療事務の仕事も高度化している。その象徴が診療情報管理士であり、病院によっては資格がないと課長以上にはしないことを明言している。全員そこまでは行けないにしても、上の人は伸ばすことが必要だと思うし、できればそういった人たちに奨学金を支給してでも入学してもらいたいと思っている。アドミッション・ポリシーをオープンキャンパスで明示して、皆さんどうぞではなく、伸びしろのある学生を集めることが募集・広報においても必要だと思う。</p> <p>それについては教育現場と募集担当の思いが一致していなければならない。広報と教育現場が同じ方向を向っていく協議会にしたい。</p> <p>仕事についても案内書やオープンキャンパスで説明しているが、学生はあまりわかっていない。来年度は、医療秘書科で、今までは1度も成立しなかった医療秘書コースが、その仕事について病院の方に話をしてもらったところ49名が選択した。今まで伝えているようで伝わっていない、我々も理解していると思っても理解していないことがあると思うので、募集広報協議会はそうした役割も担うものとして設置する。</p>
<p>□入学前の人たちには学内との接点がありません。案内書やオープンキャンパスの中で本校の方針を伝えるというのは、なか</p>	<p>□伝える努力としては、専修学校協会で高校の先生方を集めたセミナーにも参加している。職業実践専門課程は文科省のお墨つきと言うがどうなのかと聞かれたケース</p>

なか難しいと思うが。	もつい最近あったが、高校の先生も専門学校の実態をよくご存じない。学内でも、もう一度確認した上で、みんなが同じ方向を向いて仕事ができるようにしたいと思っている。
------------	---

(2) インターン生の内定辞退について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□インターンに行って、自分には無理ということで内定辞退する学生が増えたということは、学生の質が変化しているのか。	□一概に学生の変化とは言えない部分がある。例えば、医療事務職で応募したが採用に至らずクレーク職で内定して、インターンに入ってみたら思っていたものと違うということで辞退したマッチングの指導が十分でなかったケースもある。学生のメンタル部分が弱くなっているのも要因としてあり、多様化している。 また、学生同士がSNSでつながっているため、学生同士での情報で、ちょっとつらいところがあると私も辞退しようかなという動きにつながることもあったと思う。指導姿勢も含めて、そういったことが複合的に重なって増えているのが実態ではないかと理解している。
□例えば、こういう職種にも四大卒業生が入ってきて優遇されている実態があり、そのことで専門学生が消極的になっているということはないのか。	□四大生を積極的に採用したいというのは、特に大きな病院の場合にはあると思う。ただ、これは病院だけではなくほかの職種、業種でも同じで、決してそこでの評価が低いということではないと思う。病院訪問などの際に四大生との兼ね合いでどうかということは、改めてヒアリングなどを行っていきたい。専門職という部分では学習内容が違うので、そこで評価が大きく変わってきていることはないと思うが、現場の実情は改めて検証していききたいと思う。

(3) 広報活動の方法について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□私の古い経験なので参考にならないのかもしれないが、教育と広報が一緒に募集をやるスタイルは以前からあると思う。ある学校では、広報の職員が高校訪問や体験入学で説明するよりも、実際にその学科の先生たちが説明、訪問することによってよい結果が出た。また部署を一つに集めて、話を聞かざるを得ない環境をつかって、危機感を上から説明して一体感を持ってやる意識づくりをした。そうしたらその年は結果が出た。相入れない部分はあったとしても、お互いの仕事を理解しながら全体でやっていくというのは、いい部分が出てくると思う。	□施設の方や高校の先生から伺ったことだが、資格取得者の採用は目指しているが、とても人数が足りないので高校生の募集に現場が動いている。採用した施設で初任者研修を取って現場で働いてもらい、勤続3年とか5年で上位資格を取っていくシステムをアピールしているとのこと。 東京都の場合は、高校時代にある程度の成績を取っていると初任者研修が無料で受けられる。進路指導では、しっかりした生徒は初任者研修を受けて施設に直接就職、そうでない生徒は、専門学校や大学・短大に行って勉強してから就職という話もあり、我々にとっては少し厳しい面もある

福祉関係で高校生を採用するところがあるとのことだが、それは具体的にどういうことなのか、どうして高校生なのか。	が、そんな状況も生まれている。
--	-----------------

(4) 退学者の増加について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 重点目標にもかかわらず退学者が増え、特に、年明けに 17 名の退学者が出ている。努力してもこういう結果になってしまった原因をどう分析しているのか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 退学届・学籍異動の記録のフォームを変えて、指導経過についてより詳しく書くことにした。またその情報は学内の指導担当には公開して事例を共有している。その中で、この段階でもう少し手を差し伸べていればというケースも若干あったと見ている。中には必ずしもこの仕事に就きたくて入学していないとか、学生のレベルが低いからしょうがないと最初から言っていては、そもそも目標に近づくことはできないので、何とかできたかもしれないという意味で教育の精度を上げていく。ここが甘かった、緩かったかというところはチェックする仕組みを考えていきたい。</p> <p>委員の皆さんから厳しい意見もいただきながら、結果的によい仕事をする。それがよい学校につながっていくと信じているので、検証も続けていきたい。退学が多いクラスには、指導に問題はなかったかという点での検証も必要だと思っている。お互いに厳しくやっていきたいと思う。</p>
<p><input type="checkbox"/> 年明けの退学者は長期欠席者か。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校を休みがちな学生にいかに早めに指導していくかが大事になってくる。</p>	<p><input type="checkbox"/> アルバイトの事情などで欠席が多くなっていく事例では、特に夜遅いアルバイトが退学につながったケースもあり、教職員だけでは学外の指導は難しいところもある。家庭との連絡ももう一回確認しながら、指導の原点に帰ってやるしかないと思っている。</p> <p><input type="checkbox"/> そういう学生が辞めずに続けられている緩い状況が伝えられると、休んでも最終的に単位が取れて進級できると思われてしまい、ほかの学生に影響を与えるケースもあったように思う。年明けに 2 桁の退学は私としてはショックな内容で、少し指導が緩んだかなと思っている。</p>
<p><input type="checkbox"/> 必要なタイミングで声をかけることが大事ではないか。兆候が表れるときもあるだろうが、常に担任が気にして頻繁に声をかけないと、なかなか減らないのではないのかと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/> 担任の努力は当然必要だが、学校の運営体制の問題もある。今年度で言うとな人の教員が 50 名近いクラスを二つ持っているケースもある。そういう状況では担任一人の責任ではない。決して手を抜いているわけではないと認識している。</p> <p>何か兆候が見えたところで対策する。兆候を見つける仕組みとしては、保健室、学生相談コーナーもあるが、</p>

	それだけでは捉え切れないケースも出てきている。どこまで本当に防げるのかは難しいが、我々の気持ちが緩むといけない。指導の原点をもう一回確認し、この数字を受け止めて進めていくしかないと考えている。
□医療秘書科、医療マネジメント科は職業実践専門課程だが、先ほどの内定辞退も含め、こういう問題点を教育課程編成委員会で共有して連携することも課題ではないか。教育課程編成委員会で意見を聞くことはあるのか。	□教育課程編成委員会には今回報告したものと同じことを報告している。 □2月に医療事務分野教育課程編成委員会があり、私から委員の皆さんに投げかけ、コメントをいただいた。次回も引き続き検討する。

6. 平成26年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組（年度末点検）報告

○保坂委員長より、資料4は事前配付しており、説明も重なる所があるので、私から投げかけながら進め、質疑応答を行いたいとの説明があった。

(1) 教員研修について

○石川学科長より、教員研修、資料Fに追加、医療秘書科では医学通信社による診療報酬改定を読み解く研修に3名が出席したとの追加説明が行われた。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

①病院見学プログラムについて

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□病院見学プログラムの感想を聞かせてほしい。	□外来受付、入院の請求、病院の中のシステムなどを見学した。医事課の仕事では通常の請求業務よりも深く掘り下げた知識が求められていて、診療情報管理士の資格者が当たっている状況だった。システムに関しても点数改正ではいろいろあるが、求められているのはシステムそのものの知識であり、導入にあたってアドバイスができるレベルの方がたくさんいた。外来受付業務はスムーズに進んでいて、会計はほとんど待たせていない。今後の求人は医師事務補助者を増やしたいということだったが、先生が使う専門用語を実際に書き込む、記録内容を聞きながら文章を起こすなど、医師事務の業務はかなり大変そうと感じた。仕事に慣れるまでの期間を聞いたら最低4、5年はかかると話されていた。

②授業公開について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□授業アンケートの資料を見ると、授業の進め方に関する質問と担当教員に関する質問で、先生方が熱心に指導されている面は常に意識しているが、質問8の「見やすさ、わかりやすさに	□今年度は、いつでも見ていいですよ、何にも用意しないで、とにかく見に来てくださいというスタンスでの公開にしたが、見に行かなかったのが実態。実施期間中の全ての授業を原則公開するの

<p>配慮して、工夫しながら授業を進めているか」が若干低めになっている。関連して、学生の授業への取り組みに関する質問で、若干低めなのが「居眠りはしていない」で、授業がつまらないと感じているのが若干ある。</p> <p>これを見るとやはり教員のインストラクションスキルを向上させるための教員研修が必要ということが改めてわかる。授業公開がうまくいっていないようだが、自分の授業を客観的に見てもらう、自分のやっていることを見てもらうのは当たり前という雰囲気をつくらなければならない。そのための機会をつくっていくことが必要ではないか。</p> <p><input type="checkbox"/>であれば対象を、教員だけでなく、例えば保護者とか、場合によってはオープンキャンパスだけでなく、ふだんでも迷惑がかからない程度に見てもらうとか、何らかの工夫が必要ではないか。</p>	<p>で1ないし2の授業をぜひ見学してくださいとお願いしたが、いろいろ業務があるという理由で見学した教員が非常に少なかった。</p>
<p><input type="checkbox"/>授業を見に来られた先生が一人いたが、レポートをいただいている。いろいろ試行錯誤でやっているの、楽しみにしていた。最後までいなかったからかもしれないが、授業公開した先生に何らかの形でフィードバックすると、公開する側ももう少しモチベーションが上がるかなと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/>記録上は見学なしという報告がされている。見学すれば参観レポートを必ず先生にお返しするという仕組みでやっているの、齟齬があったかもしれない。</p> <p><input type="checkbox"/>私と一緒に見た事務職員が、レポートを書くのが大変なのか、数には入れないでほしいと言っていた。公開するほうの姿勢はあっても、見る側がフィードバックするという部分で手間を惜しむこともある。教員同士の場合には、公開期間が限られていると見たいけれども見られないケースもある。見る側がどうすれば見やすくなるか、その仕組みを実施期間も含めて工夫する必要があると思う。</p>

③在宅介護現場の見学実習について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>2月に在宅介護現場の見学実習とあるが、具体的には何をしたのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>実際に訪問して、利用者様を後ろから見る形で、主に医療的なケア、胃ろうと喀痰吸引の実施や排泄の介助などを見学した。</p>
<p><input type="checkbox"/>在宅の人材不足と言いながらも、待遇の問題もあって施設に就職する方が多いのが現実。また、以前のヘルパー研修でも、在宅の実際の研修はさわりだけというのが実</p>	<p><input type="checkbox"/>兼任講師の先生方と違い、教員は現場から離れて年数たつと、現場の声や新しい情報を知らないまま授業を行ってしまうことになることから、教員も現場に触れることを目的にこの研修を行った。</p>

態だったので、先生方のこういう取り組みはよいと思う。	
----------------------------	--

(2) 運営方針について

○運営方針が浸透しているかという委員会の投げかけに対する点検・評価について、橋本校長より以下の追加説明が行われた。

・浸透はしてきているが、それがすぐ行動につながるかというところでもう一步という状況と思っている。来年度はそれをアクションすることを意識しながら進めていきたいと思っている。

○委員からの質問・意見はなかった。

(3) 教育活動について

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

④ 医師事務作業補助者の教育について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□今年4月から診療報酬の改定がある。その中で医師事務作業補助者の評価が点数的にも上がるので、現場で求める内容の高度化と幅広い対応が必要になる。	□今回、特定機能病院の加算も対象になったということで、大きく動いている状況があるので、よいタイミングだったと思っている。
□カリキュラムのコース内容再編や医師事務作業補助者の教育、平成29年度専攻科開設はそれをにらんでと理解してよいか。	□名称は医師事務技術専攻科という形になったが、教育課程編成委員会でこういう教育が必要ではないかという声があり、それに基づいて昨年行った学科再編の検討や医療事務系教員の高度化研究会の中でやってみようとなった。ただ、これは医師事務作業補助者の資格を取るだけでなく、カルテの代行入力といった技術の部分、医療秘書的な部分も踏まえて、現場で役立つ人間、1年間プラスでやっただけ違う人材を送り出していきたい。当面は学内からの進学になるが、ゆくゆくは外から入ってくる人材も受け入れることも視野に入れて、学校として高度化を意識的に行うことを目指している。

⑤ 模擬試験参加状況について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□鍼灸医療科の1月実施の国家試験模擬試験の参加状況が悪いとあるが、理由は何か。	□1月の国家模擬試験は冬休み中に設けているが、学生は鍼灸治療院や接骨院でアルバイトをしていることから、休み期間中はそちらを優先させた。これは国家試験合格後にアルバイト先に就職していく状況があるので、休み中に出てくるのが難しいということが背景にある。新3年生は企業推薦制度の学生も来ていることから、1月の初めの模擬試験の参加状況が悪化することが懸念されるため、来年度は1月の授業再開のときの14回目の授業に取り込んで実施するように工夫した。

(4) 学生支援について

○就職支援について、宮下事務局長より以下の追加説明が行われた。

- ・キャリアサポートセンターの来年度の課題として、最近は大きな病院への受験を避ける傾向、大学の附属病院や総合病院にチャレンジしない姿勢がある。大きなところがよくて小さなところがだめというのではないが、大きなところのよさを知る卒業生もいてほしいので、学科と連携して認知度を上げて受験を促進し、チャレンジをする学生を増やすことに取り組んでいければと考えている。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

⑥就職志望先を選定する理由について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□大病院を避ける理由は何か。	□大学の附属病院やグループ病院の採用は、配属が家の近くになるかわからない、また自分の希望する仕事につけるか不安があるといったことで避ける、小さなところはそこだけなので安心と考えているところがある。

⑦保護者会について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□全体に声をかけて、大がかりな保護者会というのは検討しなくてもよいのではないか。保護者会や父母会は学校を支援する応援団という立場の組織としてあると思う。この場合は学校主導で声かけをして、開催したところで何を話すのかということも懸念されるので、必要に応じて、個人とか学科で父母を呼んで話すという程度でよいのではないか。	□国家試験系の学科について言えば、国家試験に向けた勉強をする中で家庭のサポートが必要という視点でそれをお願いする、勉強の流れをわかっていただくといった意味がある。 クレームを持って来られるような会だと厳しいところはあるが、クレーム自体は保護者会の有無にかかわらない。保護者会に来てくださる熱心な方がいらっしゃるなら、それは決して無駄にはならないと思っている。目いっぱいやっている中でなかなか手間がかかりにくいということはあるが、例えば入学式後に学校に移ってもらってそういった会をやることも可能性としては考えられる。

⑧家庭と学校との連絡について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□退学のことは一人暮らしの学生と自宅から通っている学生とは違うと思うので、やはり家庭と学校との連絡のことが気になる。子供たちが学校に行っているかどうかをどの程度家庭で把握しているか、例えばアルバイトで言えば、学業に支障を来すほどのアルバイトをしていないかなどを、学校と連携してというか、各家庭の考えがあるので難しいとは思いますが、その辺の連絡状況は非常に気になる。	□退学では、家庭で親と学生本人の連携がとれていないことが多いと思うし、アルバイトの問題では、深夜のアルバイトなどは、親があまり子供のことに興味を持っていないというケースが多いように思う。退学の事例は、親の意向で学科選択した例に見られるボタンのかけ違いもあるが、欠席が多いケースでは、家庭が見守ってくれるところは極めて少ないことから、家庭との連携はぜひ取っていききたい、情報提供についても学校として意識的に考えていかなければと思う。 その意味で、例えば成績票を家庭に送ることや、学

<p>入学してすぐの状態のときに、学科によって検定や国家試験等でいろいろ流れが違うとは思いますが、例えば学校生活の流れの中で、各ポイントでこういうことがあるというのを知らせていただくとよいと思う。連携がきちんととれていれば、この頃はこれがあるから勉強をしているというのを見守る形で声をかけることができるが、子供たちがどういう形で授業を受け、流れをつくっているのかが見えていないと、声かけができないこともある。その辺の情報は、何らかの形で家庭でも把握していたいと思う。</p>	<p>費請求のときに状況を知らせて、それを機会に学校に問い合わせをいただくような接点をつくっていく努力を学校としてもっと意識的に、課題として各学科も捉えていいと思っている。</p>
<p><input type="checkbox"/> 学校から送られて来るニュースや情報は、子供は見ないが親は見ている。そういう面では親に対して情報はある程度伝えることが必要だと思うし、成績票も送ってよいと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/> Gメールなどの連絡手段もあるので、登録していただいた方に情報をこちらから送るといったこともやっていければよいと思う。</p>

(5) その他

⑨ マイナンバーと学生の関連について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> マイナンバーと学生は何か関連するものがあるか。奨学金の申請のときに必要か。</p>	<p><input type="checkbox"/> マイナンバーを学生から取得することはない。(宮下事務局長)</p> <p><input type="checkbox"/> 文科省の新しい制度で、前年度の収入がない人の返還を免除する収入連動型の奨学金返還というシステムでは、扱うケースが今後出てくる可能性があるが、現状はマイナンバーには触れないことにしている。</p>

○最後に保坂委員長より以下のコメントが行われた。

- ・年度末点検をした結果、特にT P Cの面と退学率の面で少し芳しくないとの報告だった。専門学校の学生気質が時代とともに変わっていることなどがあると思うが、社会に出ると専門学校で学んだことの成果は必ず生かせるので、その自信を先生方が学生に植えつけて欲しい。
- ・これから短大、四大卒と混じって社会経験を積んでいく中で、2～3年間実務教育を受けたことは自信を持ってよいことだが、そういう部分を先生方がきちんと学生に伝えていくことが必要ではないかと思う。

以上